

テーマ『やる気』について

令和2年12月19日(土) 9:00-9:45

Zoom ミーティング参加者 保護者4名

川中子 9時になりました。おはようございます。今、まだお一人しか入っていませんので、これからだんだんと入ってくるかなと思います。

今日は、墨田区も昨日の段階で感染者が累計 1038 名になっていて感染症も心配です。1回目、2回目は、広い場所で予防策をとって実施したのですが、先日オンライン授業公開などもやりましたので、こちらの Zoom ミーティングに挑戦してみることにいたしました。よろしくお願いします。

それでは、今日これを始めるに当たって確認しておきたいことがいくつかありますのでよろしくお願いします。(資料:「確認」を説明)

今日はテーマを「やる気について」ということで始めます。

まず始めに、今日この会に参加して下さっている皆さんの自己紹介と、今回のテーマ「やる気」について、もし何か思い当たる点があったらお話しただけならありがたいなと思います。

では、Aさんからよろしいでしょうか。

Aさん はい。6年生の男子の母です。「やる気」は、むすこは何に関してもないほうなんですけど。我が家の場合は、ちょっとダメかもしれないんですけど、お金の釣ってます(笑)。例えば、少年野球をやっているんですけど、ツーランを打ったら3000円とかホームラン打ったら5000円とかいうふうにお金をかけたり、お手伝いもポイント制にして、かんたなお手伝いは2ポイントで20円とか。なるべく月のお小遣いを少なくしておいて、なるべくポイントで稼ぎなさい、というふうにしています。以上です。

川中子 ありがとうございます。いろいろやる気を出させるために、昔よくマンガにありましたけど、馬の目の前ににんじんをぶら下げてですね。馬を走らせるみたいなことがありますけど。そんなことについてもまた後で話題にしていけたらなと思っています。どうもありがとうございました。

では、Bさんよろしいでしょうか。

Bさん おはようございます。5年生の男子の母です。「やる気」についてということなんですけど、うちの子は本当にやる気がないというか。なかなかやる気になって一生懸命やってくれないので、何かいい考えがあればと思って参加させていただきました。よろしくお願いします。

川中子 よろしくお祈りします。ありがとうございました。それでは、Cさん、いかがですか？

Cさん おはようございます。1年生男子の母です。1年生なので、やる気をどうやって出させるかが今ひとつよく分からなくて、参加して皆さんの意見を聞きたく思っております。よろしくお願いします。

川中子 よろしくお祈りします。はい。1年生と6年生とでは、やる気の話をするときにはずいぶん違つかもしれませんね。6年生はもうすぐ中学生、1年生はまだ学校に入ったばかりですからね。またあとで話しがすめられたらなと思っております。ありがとうございます。

では、Nさん、いかがでしょうか？(通信がうまくいかず、退出されました。)

ありがとうございました。それでは、やる気を出させるというのは本当に難しいところで、保護者の皆様もいろいろと悩まれるところだと思います。学校の先生たちも、子供たちにやる気をどう出させようかというのを日々研究しています。一生懸命、いろんな工夫をして、子供たちのやる気を出させようと考えているんですけど、今日は、皆さんの話を伺いながら、やる気をどう出させたらいいか、簡単なヒントが見つかるというかなと思っています。それでは、ちょっと画面の共有をさせていただきます。

やる気、って言葉はよく使うんですが、まず「やる気」って何かと考えてみると、似た言葉で「モチベーション」という言葉もあります。これは「動機付け」という意味ですが、ほとんど「やる気」と同じように使われることもあります。モチベーションをどう上げるかは、子供の話だけでなく、大人のビジネスの話でもよく使われる言葉かなと思います。どんな時に、何に対してやる気を起こすことがあるか、ということを確認しておきたいんですが、先程、みなさんのお話にもお子さんのやる気がなかなかなくてという話がありましたが、そこで話されていたのは、だいたい勉強に対してです。勉強に対してのやる気、っていうことなのかな。まあ、学校の先生と話しをすれば、そういう話題がメインになってくるのかなと思うんですが、もちろん、子供たちの様子を見ると、やる気をだすもの、っていうものもある。例えば、スポーツの好きなことでしたら、スポーツにはやる気を出していると思いますし、ゲームが好きな子だったらゲームには一生懸命にやっているとしますし、お絵かきが好きなら絵を描いていられるとか。好きなことに対しては、人間はやる気を持続することができて、もっといいものを目指そうとするわけです。そう考えていくと、例えば勉強なんかにしても、勉強はあんまりやる気がでないというのは、あんまり好きじゃないからかな。勉強が好きになるとやる気も出てくるのかなと思うんですが、なかなかそれが難しいところですね。

やる気のことを考えるときに、参考になるかと思って用意しましたが、日本の子供たちや若者の状況について外国のケースと比較した調査が行われています。こちらは平成30年の11月に行われた内閣府の調査で「国際比較から見えてくるもの」というものなんですけど、「日本の若者は、諸外国の若者と比べて自身を肯定的に捉えているものの割合が最も低い。日本の若者の自己肯定感の低さには、自分が役に立たないという、自己有用感の低さが関わっている。」ということだそうです。

(資料についてもう少し詳しく確認。詳しくは「資料」を参照ください。)

この結果を見て、日本の子供の自己肯定感の低さっていうのは大きな問題だなと思います。自己肯定感っていうのはどういう風に育てていくかということ、簡単に言うと、褒められる・認められる、という経験の多さで決まってくる。小さい頃から、「がんばったね」「すごいね」「い



校長室にて「オンライン語らいサロン」

いね」「よかったね」という言葉をたくさんもらっているかどうか重要なポイントになってくるかな、というところですよ。

あっ、今、新たに入っていたのは…、Dさんですか？

Dさん はい。おはようございます。

川中子 今、9時からスタートしておりますので…。

Dさん すみません、遅れちゃって！

川中子 とんでもないです。Dさん、簡単に自己紹介をお願いしてもよろしいでしょうか？

Dさん 3年生の男子の母です。

川中子 「やる気」について話をしているんですけど、お子さんのやる気について何か感じるところはありますか？

Dさん あの、末っ子なんですけど、小さいときは何かのもので釣られる、っていうか。何かあると暗唱を頑張ったりもするんですけど。やはり大きくなるにつれて、自主性。何か、ないと無理だなって、親も思っています。そう感じています。

川中子 ありがとうございます。今日は、これから話をしていきますので、基本的にはミュートしておいていただいて、発言の時に外していただく調子が良さそうですので、よろしくお願いします。

Dさん よろしくお祈りします。

川中子 それでは、今の、自己肯定感の低さと言うことなんですけど、このことについて、何か思い当たる場所はありますか？ Bさん、いかがですか？

日本の子供たちが自己肯定感が低い、自分は価値のある人間だっと思う子供が非常に少ないということなんですけど、それについてどういう風に感じになりますか？

Bさん 最近、子供がいろんな本を読んでいるんですが、その中で「人の役に立つのは素晴らしい」ということをたくさん見たんですね。「僕は、どういう風に人に役に立てるかな？できないんじゃないかな？」って考えているんですね。まあ、うちの子だけじゃなく、他の子もそうなのかなって。

川中子 ありがとうございます。それは、とっても大事な視点ですよ。「人の役に立つ」そういう人になってほしいと思うし、自分もそうなりたと思うと思うんですね。自分が人の役に立っているのかどうかって言うのは、やはりさっき話したとおり、認められるかどうかで、自分でモニターしていくことができますよね。「あなたのおかげでとても助かった。ありがとう」と言われれば、認められる、感謝されて受け入れられたって思います。そういう経験が多ければ多いほど、ああ自分って何か人の役に立つのかな、って自信もてる、自分にもいいところがあるのかなって言う気持ちが強くなっていくのかな。ありがとうございました。

他いかがですか？ Aさん、いかがですか？

Aさん はい。やはり、日本という国柄、親が厳しいっていうか。人はこうあるべき、というのが強く出ていて、どうしても厳しくしちゃうのかなって思います。やっぱり、褒めるのは、大事ですよ。うーん。褒めてあげたいと思います。

川中子 で、褒めるのも、なかなか難しいんですよ。特に日本の人は、あんまり褒めるのが得意じゃない。私はもともと英語の教員だったので、アメリカの人なんかのことをよく見る機会がありましたが、彼らは、例えばスポーツなんかのコーチでも、日本では「根性！」とってつらいことをさせる、ダメなところを指摘して矯正していくような指導が多かったんですけど、アメリカ人のインストラクターは、必ずその子の良いところを見つけて、「今のいいね！」と褒めて、選手のいいところを伸ばすような指導をします。確かに、日本は厳しい、というか、否定的に物事を見て行くという傾向が強いのかもかもしれません。もしかすると、これが「人に迷惑をかけない」とか、そういう村社会の中で協調していくために必要な力だったことと関係しているかもしれません。ありがとうございます。

Cさん、いかがですか？

Cさん うちの子もやっぱり、どうせ自分うまくできない、みたいな考えをするタイプなので、確かに、いっぱい褒めたりということをしてこなかったな、ということは今すごく反省しました！

川中子 いやー、本当に、ね。褒めるのって難しいんですよ。なぜ褒めるのが難しいかっていうことですね、日本の子供たちの自己肯定感の低さとも関係するんですけど、「人と比較して」何かを考えるってことがすごく多いからなんですよ。他の子と比べちゃうので、他の子はもっとできるじゃないかという思いが、どうしても親にはあって。そういう傾向はよくあることかな。上手に褒めるのってすごく難しいですね。今日は、あとでその、褒めるってことについても話ができたらなと思います。

Dさんはいかがですか？日本の子供たちが自己肯定感が低い、ということについて何かお感じになることはありますか？



Dさん 先程、校長先生がおっしゃってくださったように、迷惑をかけないよ
うっていうのは…。実は、うちはハーフなんですけど。上の子はもう
20歳過ぎていそうですね。わりと、外国から転校してきたので、本当に。
末っ子は小さいときに来たので、そうでもないんですが、わりと自己ア
イデンティティというか、自分の存在的なことを悩んでいるなって感じ
ていて。それは、すごい難しいなって思っているんですけど。やっぱり、
文化の違いもありますし…。でも、がんばっているなと私は思うんです
が、そこら辺は難しいなって思います。教えていただきたいです。

川中子 ありがとうございます。そうですか。おそらく、私なんかには体験的に
理解できないことをお子さんたちが非常に体験しているんじゃないか
なって思います。今、第三吾嬬小学校にもたくさん、外国籍のお子さん
だったり、親御さんのどちらかが外国の方というお子さんはいますか
らね。実は、私も以前、もう10年以上前ですが、仕事でドイツに赴任し
ていたことがあって、向こうで「外国人」として暮らした経験があるん
です。ドイツの学校には親が日本人とドイツ人のお子さんもたくさんい
ました。その子たちは、普通の(?)日本人のお子さんとは、別の感性をも
っているお子さんがたくさんいて、それは素晴らしい個性だなと思いま
した。その、いいところを伸ばしていく、っていうのが、とても大事で
すね。この「いいところを伸ばす」っていうのが、やる気を引き出すこ
と関係がありますね。どうもありがとうございました。

それでは、今、自己肯定感の話も出てきましたが、「自分はどうせだ
めだ」と思っていたらやはりやる気なんて出ませんよね。やる気が出て
くる、っていうのは、やはり自信に満ちあふれているときだったり、自
分の精神状態が安定しているときなのかなって思うんですね。自分の
精神状態が安定している、自信に満ちあふれている、というのは、いか
に他者に認められるか、に重要なポイントがあるんですね。

やる気を出させる方法、というのを考えるときに、やる気を「失わせ
る方法」を一緒に考えてみるとうわりやすくないかかってことでは
すね、実は先日私もある方のお話を伺って感銘を受けたことがあるの
で、そのお話を紹介させていただきます。

えー、こちらの本なんですけど、(画面に映して見せる)『子どもを伸ば
す教師の戦略』という本なんですけど、この本を書いた石田さんという方
がいらっしゃるんです。この方が、昨年度のPTA連合会が開催した研修
会で講師でいらっやっして、そこで初めてお話を伺いました。どう
やったら、子どもたちのやる気を引き出すことができるか。どうやたら、
短期間で成績をアップすることができるか、ということの具体的な
お話をされたんですが、この方のお話の中に「やる気」ということに非
常に役に立ちそうなヒントがたくさんありましたので、紹介させていた
だきます。

まずは、学年が上がるに従って、子どもたちの自己肯定感が低くな
っていくんですが、一つの原因として、学校の成績が良くないというこ
とがあります。逆に言うと、学校の勉強がよく分かる子は、テストでもい
つもいい点を取っている。テストの結果で、認められているんです。それ
が、みんな90点や100点を取っているのに、70点だ、といわれると、70
点はそんなに悪くないんですが、やはり他の子と比べて自分はダメだ
と思いがちです。いい点を取れる子っていうのは、だいたい上の30%位
なんですけど、残りの70%の子は、あまりいい点数をとれてない子なの
で、やる気も出しにくいかもしれません。

石田さんはいろんな本を書かれていて、私も5、6冊読んだんです。
先日、実は、学校にも来ていただいて、先生たちに講演をしていただ
いたんですが、先生の本の中にこんなことが書いてあります。「子ども
の自己肯定感を下げる三つの呪いの言葉」とあって、子どものやる気を下
げる言葉ですね、何という言葉だと思います?

我々が、子どもたちによく使っている言葉で、子どもたちのやる気、
自己肯定感を下げてしまう三つの言葉なんですけど、これがですね。まず
は、「きちんとしなさい!」次が「早くしなさい!」そして「勉強しなさい」
なんだそうです。これは、まあ、普通の親なら必ず使っていますよね。こ
の言葉を言えば言うほど、子どもたちはやる気をなくして、勉強もしな
くなる、と。特に「勉強しなさい」っていうと、偏差値が5下がる、なん
て言っています。

逆に、それを言わなくすると言うのが大事なんですけど、それを言わ
ないっていうのはすごく難しいことで、「勉強しなさい、って言わなければ
勉強しないんです!」っていう方が多いですよ。じゃ、どうしたらいい
か、というと、別の言葉を言った方がいいと本には書かれています。「勉
強しなさい」のかわりに「やるべきことをやりなさい」っていうといいそ
うです。「勉強しなさい」は上からの命令に聞こえますが、「やるべきこ
とをやりなさい」は自分で考えて選ぶ余地があるところがいいそうで、
それだと反発できなくなるんだそうです。

さて、どういう言葉で自己肯定感をあげることができるかって言うの
もありますので、そちらも見てみましょう。画面を共有させていただきます

ます。
これは、この本からとったものですが、まあ、どの本にも同じことが
書いてあります。「子どもの肯定感を高める10のマジックワード」
ということです。さっき、ほめるっていうのが難しいって話をしまし
たが、上手に褒めないと、褒めたように聞こえる言葉が、実は相手にプレ
ッシャーを与えてたり、もっとできるよね?って、間接的に否定して
いるように聞こえたりすることもあるんですね。ここに書いてあるのは、
褒める、というよりは、認める、承認する言葉っていうことですかね。
「すごいね」「なるほど」など、そういう単純な、短い言葉です。これだけ
でいいっていうんです。これが子どものプライドをくすぐるんですね、
「すごいね」って言われるとふふん、って感じで。あと、「さすがだね」「知
らなかった!」などですね。こういう言葉をたくさん耳にする子どもは、
そうか自分ってすごいのかな、って思えるようになる。相手の人に認め
てもらえたんだなって思うんですね。あと、お母さんの手伝いをして
くれたときに、「やあ、助かった!」「ありがとう!」という単純な言葉や、
自分を主語にしたメッセージ「私はうれしい」というようなメッセージを
発信するのがいいのではないかと考えてます。それから、子どもが良く
ないことをしてしまったときに、「ダメでしょう!」という否定的な言
い方をしちゃうんですけど、そういうときは「○○らしくないね。」とい
う言い方がいいんじゃないかと言っています。この言い方だと、やって
しまったことは悪いけど、自分自身のことは認めてくれてるんだとい
うメッセージが伝わるからです。

こういう言葉を普段からさりげなく使えるようになると、子どもの自
己肯定感が上がってくる。そして自己肯定感が上がってくると、やる気
も少しずつ出てくるのではないのでしょうか。

いかがでしょうか?この、呪いの言葉やマジックワードは、皆さん心
当たりはありますか?Cさん、いかがですか?

Cさん この、石田先生のお話、聴きに行ったんです。すごく勉強になって。教
えていただいた言葉、呪いの言葉というのを知ってて。使わないよう
にとか、いい言葉を使うようにしていたんですが、普段使い慣れないか
ら、さすがだね、なんて言うのも、変な感じがして。でも、話を聞いて、
否定的なことを言わないようにすると、いつもより宿題をすってやっ
てくれるようになったかなと思います。

川中子 そうですか。すばらしいですね。Aさん、いかがですか?

Aさん そうですね。「早くしなさい」はよく言ってます(笑)。朝とか、出か
けるとか。自分も時間ギリギリの人なので、そこはちょっと改善して
いって。なるべく、自分の気持ちを伝えるようにはしてるんですけど。こ
うしてくれて、助かったよ、とか。すると、進んでお手伝いをして
くれるようになったし。なるべく自己肯定感をあげられるように。3人いる
んですけど、子どもも3人それぞれ、兄弟を比較しないように。友だちと
比べるって言うのがさっきあったんですけど、兄弟で比べるっていうのも
あるから、なるべくやらないようにって思いました。

川中子 そうですね。うちも4人子どもいるんですが、やっぱりどうしても比
べてしまうこともありますよね。ありがとうございます。Bさんどう
ですか?

Bさん そうですね。「早くしなさい」毎朝言ってますね。自分の気持ちもコン
トロールしないと。分かりました。やってみます。ありがとうございます

川中子 ありがとうございます。Dさん。

Dさん そうですね。いろいろ今までの、わかっているようで、やっぱり気をつ
けないとできていないなど、紙を見せていただいて思ったんですけど。
どちらかという、勉強しなさいとかは自分が言われてすごいやだ
だったので、ぜんぜん言ってくるなかつたんですが、どちらかという、い
い風に行くことばを言うよりは、ほつたらかしくしてきたなあって、す
ごく思っているんで。あらためて、このワードを使っていこうかなと、今思
いました。なるほど、って。(笑)

川中子 ありがとうございます。そうですね、自己肯定感をあげるって言葉
で、どういう風に使っていったらいいかっていうのはぜひ本を読んで
いただいたらいいと思うんですが。この石田さんは、東洋経済オンライン
というところで教育に関するブログを連載されているんですが、昨日あ
たりで9100万PVを達成しているそうです。いろんな方に読まれている
そうで、オンライン上でも10分位のおしゃべりを投稿されていたり
して。非常に熱心に活動されているんです。それから、子どものやる気を
上げるというので、一番話を伺っていて良かったのは、手帳を子ども
にもたせてやる気を出させるっていうのがあるんですね。私もこれを読
んで非常に有効だなと感じました。もし、興味がおありでしたら、一回見
ていただくといいかもしれません。一冊の手帳を与えて、子どもが自分
からやることを決めて、それをやることで達成感を味わわせるという取
り組みなんです。手帳に予定を書いて、終わったら赤線で消させるん
です。そうやって消していくって言うのは、達成感を感じられるもの
で、最初Aさんもおっしゃっていたように、ポイント制なんかも取り入れ
て、例えば一週間達成できたら5ポイント、とか。そういうのも織り交ぜ
ながら内的な動機付けと外的な動機付けをうまくやると効果的だそう
です。この手帳でお子さんががらっと変わったという方が全国にたく
さんいらっしゃるということだそうです。やってみる価値はあるんじゃない
かな。一読の価値はあると思いますので、紹介させていただきます。
ホームページにもレジュメを載せておきました。石田勝紀さんという
方です。検索していただければ、いろいろと出てくると思います。

それでは、今日は土曜日の午前中、オンラインの校長語らいサロンに
ご参加いただきましてありがとうございました。私も、どうやったら子
どもたちのやる気を上げて、もっともっと優れた子にできるかなとい
うのは、日々学校でも取り組んでいるんですけど、学校だけで子どもた
ちが変わるのではなく、家庭だけで変わるのではなく、学校と家庭が本
当に力を合わせて子どもの将来の成長のために頑張っていけたらと思
います。これからもこんな形でも皆さんとお話しすることができたら
なと、まあ、できたら本当は対面でお話しするのが一番なんですけど、それ
でもできたらなと。私もZoomでの会議は初めてだったので、うまくい
ったかどうか分からないんですが、皆さんのお話を伺うことができると
とても楽しかったです。今日は、どうもありがとうございました。また、よ
ろしくお願いします。(令和2年12月19日午前9時~9時45分)